地域包括支援センターは65歳以上の方の相談窓口です

自立して生活できるよう支援します
介護予防ケアマネジメント

●要支援1・2と認定された人は介護保険の介護予防サービスを利用できます。
●支援や介護が必要となる恐れの高い人は、市区町村が行う介護予防事業を利用できます。

みなさんの権利を守ります
権利擁護

●皆さんが安心していきいきと暮らせるよう、みなさんの持つさまざまな権利を守ります。虐待を早期に発見したり、成年後見制度の紹介や、消費被害などに対応します。



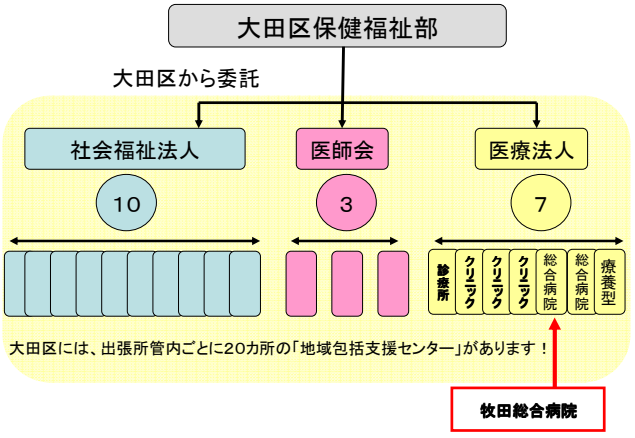
主任ケアマネージャー ・看護師 ・社会福祉士

何でもご相談ください
総合相談

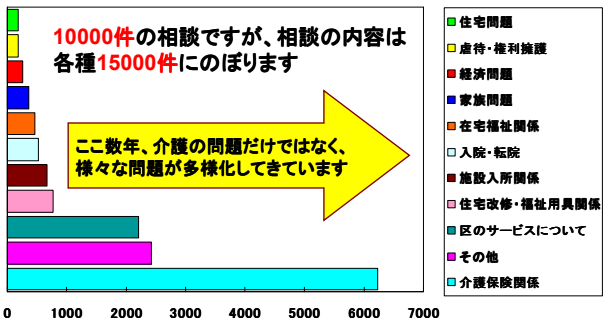
●介護に関する相談や悩み以外にも、福祉や医療など何でもご相談ください。

さまざまな方面からみなさんを支えます
包括的・継続的ケアマネジメント

●暮らしやすい地域にするため、さまざまな機関とのネットワークをつくり調整します。



大田区内20カ所の地域包括支援センターで1ヶ月10000件の相談に対応しています。



戦後60年大きく変化した私たちの暮らし

–私たちが対象とする都市部について考える–

我が国における平均寿命の推移



・江戸時代初期 ➡

350年後

・1950年代（戦後） ➡

60年後

・現　在 ➡

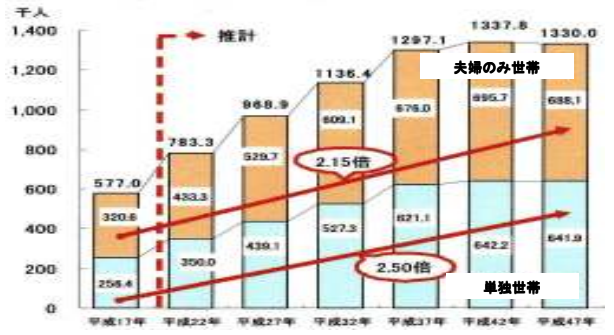


主要国の65才以上人口比率(%)

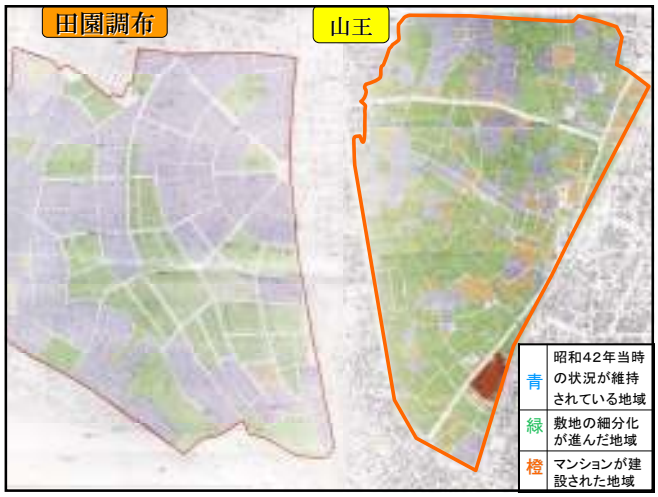
	日本	ドイツ	フランス	スウェーデン
昭和25(1950)年	7.1	13.7	12.9	13.7
平成　7(1995)	14.5	15.2	15.2	17.3
22(2010)	22.0	18.8	17.0	18.0

7～13%　高齢化社会
14～21%　高齢社会
22%以上　超高齢社会

後期高齢者（75歳以上）の独居・夫婦のみの世帯は、30年後倍加！



1. 高齢者のいる世帯の23%が単独世帯。29．5%が「夫婦のみ世帯」
2. 「単独世帯」のうち約75%を女性が占める。



戦後６０年、大きく変化した私たちの暮らし

農業社会　→　高度経済成長により工業社会・情報社会への変化

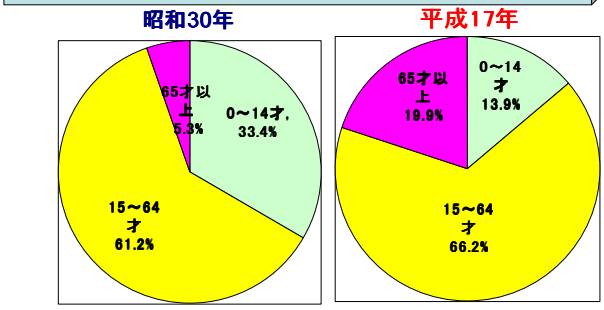
↓

人口が都市に集中、農村の過疎化・都市の人間関係が希薄・日本の伝統的な近隣関係の解体

↓

バブル崩壊（1990年代）以後、農村だけでなく都市部でも高齢化が進む

50年前と比較して見ましょう①



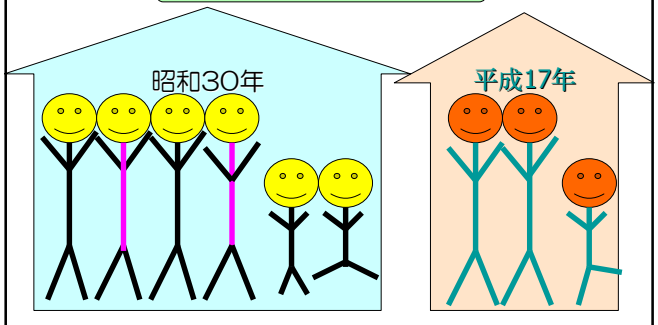
20人に一人が65才以上

5人に1人が65才以上

20年後（平成37年）には3人に一人が65才以上の高齢者

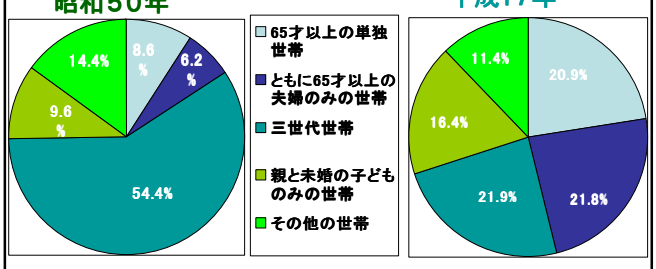
50年前と比較して見ましょう②

一世帯あたりの人数



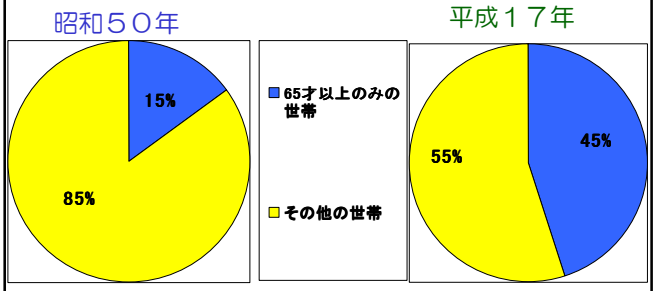
50年前と比較して見ましょう

65才以上独居・高齢世帯の割合

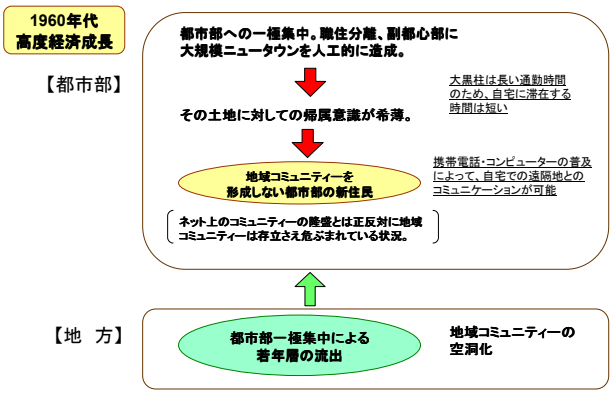


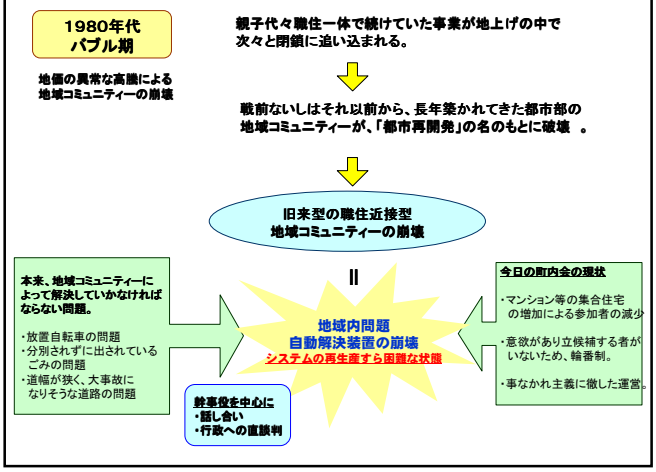
50年前と比較して見ましょう④

６５才以上のみの世帯の割合



ライフスタイルの変容が招く、昔ながらの近隣関係の崩壊





今、我が国で、地域で、何が起きているのでしょう？

NHK「首都圏ネットワーク」放送　10月9日特集

都会で暮らす
お年寄りの現実　大森

Aさん89歳　女性

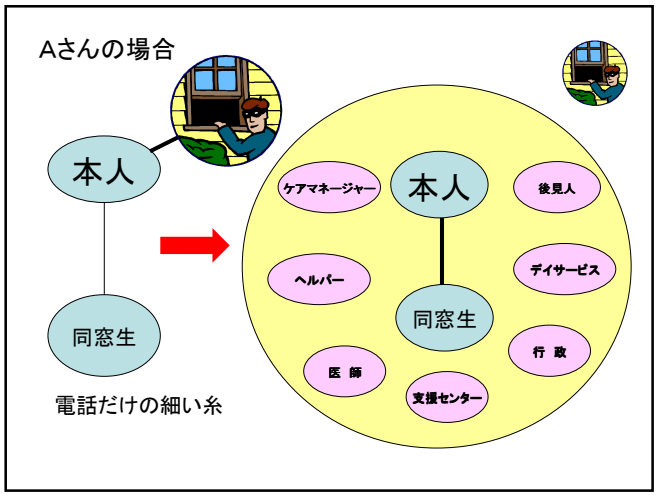
一人暮らし。
認知症があるケース。自らはSOSを出せない。
第三者が金銭詐取の形跡あり。

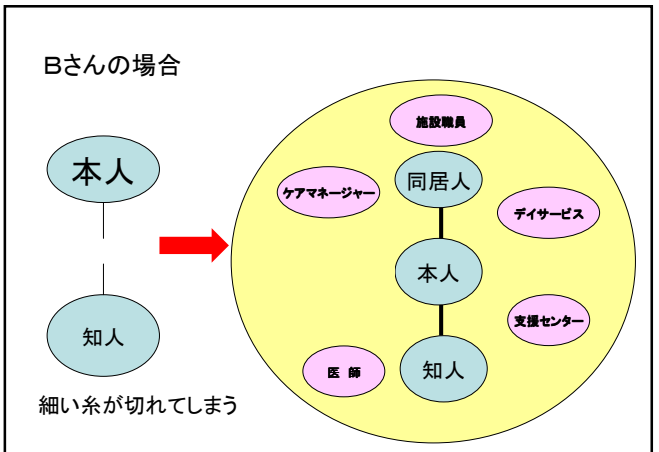
手をさしのべたのは・・・　高校時代の同窓生、電話だけのつながり。

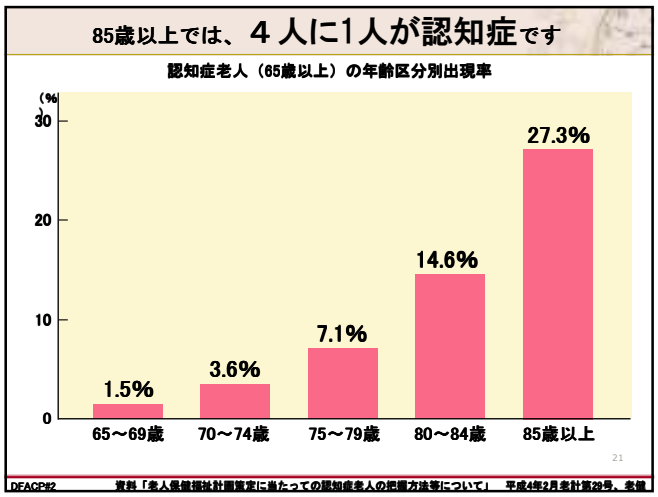
Bさん86歳　女性

一人暮らし。
認知症があるケース。自らはSOSを出せない。
被害妄想があり、孤立→閉じこもり。
脱水と栄養失調により入院。

手をさしのべたのは・・・　地域活動をしていた頃の元議員さんの奥さん



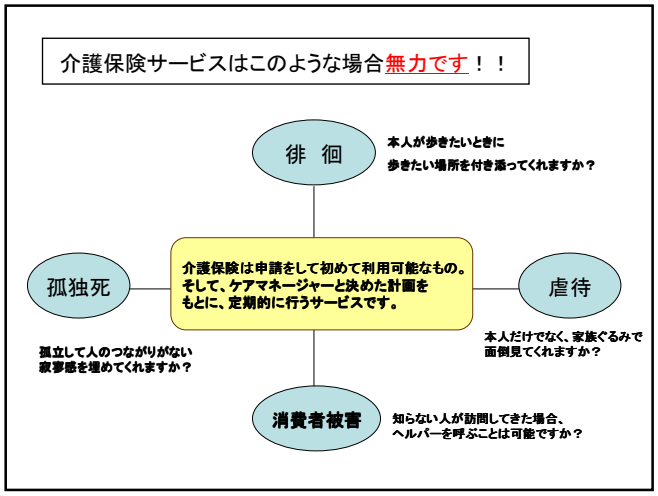




私たちが関わる大都市部地域社会のこれからは、

「一人暮らしで90歳で認知症」

というケースがごく普通にあり得る。



福祉サービスが必要だが、様々な状況で利用していない人たち

（例）

- **引きこもりで、地域から孤立しがちな単身男性**
- **消費者被害にあっても自覚がない認知症の一人暮らし高齢者**

↓

自力で問題が解決できず、または問題解決能力が不十分

福祉サービスの情報があっても理解や活用が難しい。
家族や友人など身近な人々の手助けが期待できない状態

このような人たちは、地域で生活している人にしか見えない。
身近な人でなければ早期発見が難しい。

↓

制度（システム）がなければ対応できないが、制度（システム）があるだけでは使えない

↓

個別支援から地域支援へ！！

これまでの医療は、病気を治すことに主眼を置く「治す医療」が中心

人類史上未曾有の高齢化社会を迎える我が国において、

1. 予防を重視し、日頃からの健康の維持・増進に努める
2. 病を抱えながら生活する患者と、その家族の生活を医療を通じて支援していくという「支える医療」という発想がより一層求められる。

予防を重視し、病を抱えながら生活する患者と、その家族の生活を、医療を通じて支援する「支える医療」へ

医療と介護の連携、病院と在宅を結ぶ、つなぐ機能が求められている

「地域包括ケア」の確立

◎地域包括ケアシステムとは？

高齢者が住みなれた地域で、できる限り継続して生活をおくれるように支えるためには、個々の高齢者の状況やその変化に応じて、適切なサービス、多様な支援を提供することが必要。

↓

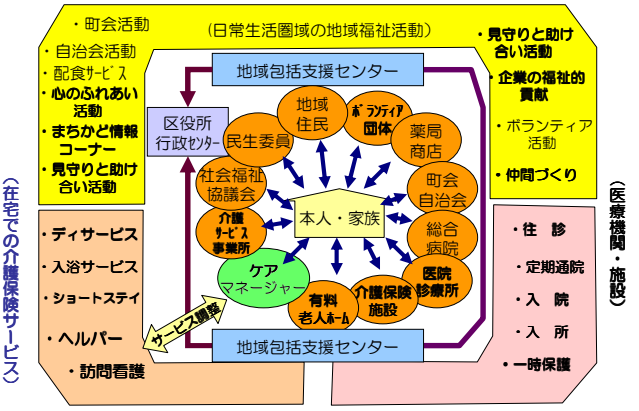
そのためには、自助努力を基本にしながら介護保険を中心としつつも、保健・福祉・医療の専門職相互の連携、さらにはボランティア等の住民活動などインフォーマルな活動を含めた、地域の様々な資源を統合、ネットワーク化し、高齢者を継続的かつ包括的にケアする必要がある。

↓

地域包括ケアを支える中核拠点

地域包括支援センター

地域のネットワーク



平成20年1月「大田北高齢者見守りネットワークをつくる会」発足！



発足当時
15名からのスタート

包括支援センター2
事業所4
企業1





現　在



後　援

大田区・大田区社会福祉協議会・社団法人東京社会福祉士会・おおた社会福祉士会
社団法人 大森医師会 ・ 大森歯科医師会
社団法人蒲田医師会 ・ 蒲田歯科医師会 ・ 蒲田薬剤師会 ・ 地域力推進六郷地区委員会

協賛病院　4	協賛医療・介護事業所　30	協賛企業　5
協賛施設　4	協力包括支援センター　8	協力企業団体2

おおた高齢者見守りネットワーク活動の３本柱！

①
地域づくりセミナー



地域づくりセミナー開催予定

日 付	テーマ	講 師
5月16日（土）	住んで良かったと思える大田区に！	大田区保健福祉部長　　中山　政昭
6月20日（土）	医療の安心 ～今から備えておけること～	牧田総合病院医療ソーシャルワーカー　山名　友紀子
7月18日（土）	住み慣れた地域で暮らし続けるために ～今から備えておけること～	地域包括支援センター　澤登　久雄
9月19日（土）	健康はお口から・・・	新谷歯科医院 院長　新谷　裕和 日本レストランエンタープライズ　佐藤　仁美
10月17日（土）	高齢者の救急搬送について	大森消防署警防課救急技術担当　野崎　明　係長
11月21日（土）	消費者被害にだまされない！！	大森警察署生活安全課防犯係　　甲斐　博憲　係長
12月19日（土）	老いじたくいろいろ	社会福祉士　　中村一孝
平成23年1月16日(土)	いざというときの施設選び	（株）ベネッセスタイルケア　松井　秀夫
2月27日（土）	認知症の人と歩む町に！ ～正しい理解と音楽と笑顔～	こだまクリニック 院長　木之下　徹　先生 うたごえ喫茶ともしび

特別地域づくりセミナー

認知症セミナー「 認知症の人と歩む町に ！」

会場：エセナおおた　大ホール　日時：平成22年2月27日（土）14：00～16：00

おおた高齢者見守りネットワーク活動の３本柱！

②

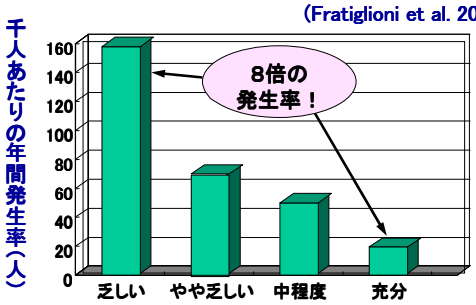
みま～もレストラン





認知症の発生率と社会的つながり

（Fratiglioni et al. 2000）



社会的つながり







一つの施設よりも、
多くの場 （コミュニティー）づくり！

・地域の茶の間づくり

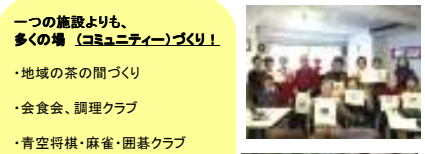
・会食会、調理クラブ

・青空将棋・麻雀・囲碁クラブ

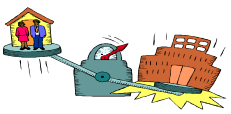
・山登り同好会
などなど・・・何でもいいんです。

「行ってみたい、行ってみるか」と思う場が必要なんです！

歩いていける距離、地域に場をつくりましょう！







みま～もレストランへ

～ようこそ！～



会場 ： 介護付有料老人ホーム NRE大森弥生ハイツ
毎月第３木曜日　10:30～13:30

参加費 2,000円（1回）



<送迎バス出発時刻>
集合時間 10:00
行き・・・ 10:00･10:15 さわやかサポート入新井　出発
帰り・・ 13:30･13:45 NRE大森弥生ハイツ　出発



日 時	食事メニュー	体験講座メニュー
4月15日 木	新みま～もレストラン花見弁当	正しく声を出そう！ ヴォイストレーニング 講師 MASAMI
5月20日 木	手巻き寿司	アロマセラピー ソフィスト 稲葉 麻里 先生
6月17日 木	精進料理	メイクアップ教室 カネボウ
7月15日 木	流しそうめん BBQ	絵手紙 金子 比佐子先生
8月19日 木	沖縄料理を堪能しよう！	三線コンサート 照屋 寛正先生
9月22日 水 （大森地区敬老の日前日にバス出発）	敬老膳 いつまでも元気で！	牧田中医クリニック　植松 秀彰 先生
10月21日 木	ソフト食を食べてみよう！	デジカメを使って写してみよう！ 澤登 久雄 所長
11月18日 木	みんなで囲むあつあつ鍋	陶芸 ギャラリー天 天明先生
12月16日 木	クリスマス会	カラーセラピー 中屋 映子先生
1月20日 木	ハーブと暮らす、そして食事	100均で作る小物
2月17日 木	いちご狩り 自分のイメージする作りたいケーキ作り	調理実習
3月17日 木	1年間ありがとう会	㊙ お楽しみ企画

おおた高齢者見守りネットワーク活動の３本柱！

③

SOSみま～もキーホルダー登録システム




SOSキーホルダー登録システム について

大森地域庁舎管内にお住まいの65歳以上の方が対象になります。

SOSキーホルダー登録システムは、あなたが、もし外出先で突然倒れるなど、身元が確認できない状況で救急搬送された際、迅速に身元確認が行えるようにするためのものです。また、認知症の方の徘徊などの際にも身元確認に役立つものです。キーホルダーが目印になり、搬送先病院や警察などが、さわやかサポートへ連絡し、あなたの登録状況を確認することができます。

★ 注意・確認事項 ★

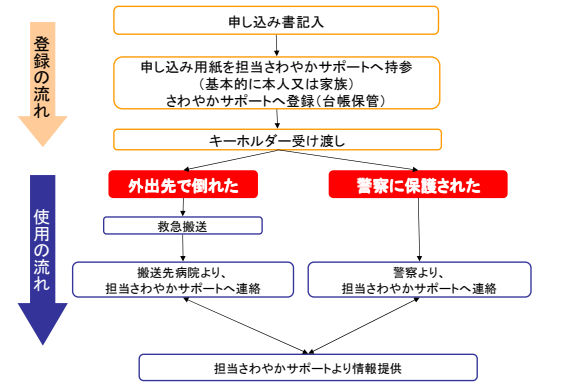
【申込用紙の記入・取り扱いについて】
登録情報は担当さわやかサポートにおいて受付及び管理します。
申し込み者は基本的にご本人又はご家族とします。
情報に変更が生じた場合は、早急にさわやかサポートへご連絡下さい。
緊急連絡先に記入された方には、事前に登録について同意を得ておいて下さい。

【キーホルダーの使用について】
キーホルダーは必ず外出の際は携帯して下さい。
キーホルダーを紛失・破損した場合は、早急にさわやかサポートにご連絡下さい。

【個人情報について】
搬送先病院、さわやかサポート双方が必要と判断した場合、さわやかサポートは、ご本人の同意を得ることなく登録情報を必要機関へ提供します。

連絡先			
	・**入新井出張所管内**にお住まいの方	さわやかサポート入新井	3762－4689
	・**新井宿出張所管内**にお住まいの方	さわやかサポート大森医師会	3772－2415
	・**池上出張所管内**にお住まいの方	さわやかサポート徳持	5748－7202
	・**馬込出張所管内**にお住まいの方	さわやかサポート馬込	5709－8011
	・**大森西1～7丁目**にお住まいの方	さわやかサポート大森	5753－6331
	・**大森中1丁目1～21、2丁目1～12・19～24、3丁目1～5・9～36、大森東1～3丁目、大森本町1丁目9～11、2丁目**にお住まいの方	さわやかサポート平和島	5767－1875

SOSキーホルダー登録システム 流れ



今後のワクワクするような新たな取り組み、そっと（？）教えちゃいます！！





2年後、私たちの新たな拠点が生まれます！！





名づけて、みま～もモニター！！

その年代だからこそできる事があると思います。
年齢を重ねた皆さんの意見を、住みやすい街づくりに活かしていきませんか？

＊みま～もモニター として、地域の様々な企業や高齢者向け商品などのモニターとして、活動する。
＊世代間交流の機会として、子どもへの絵本の読み聞かせに挑戦！



今後のワクワクするような新たな取り組み、そっと（？）教えちゃいます！PART2

商店街組合と連携して、高齢者が、「いつでも行きたいときにいける！」場所作りに取り組みます！











だれも寄りつかない公園をリハビリができる公園に！
人が寄りつかない通りを、楽しみに訪れることができる場に！！

高齢者が、安心して暮らしていくために必要なことは・・・？

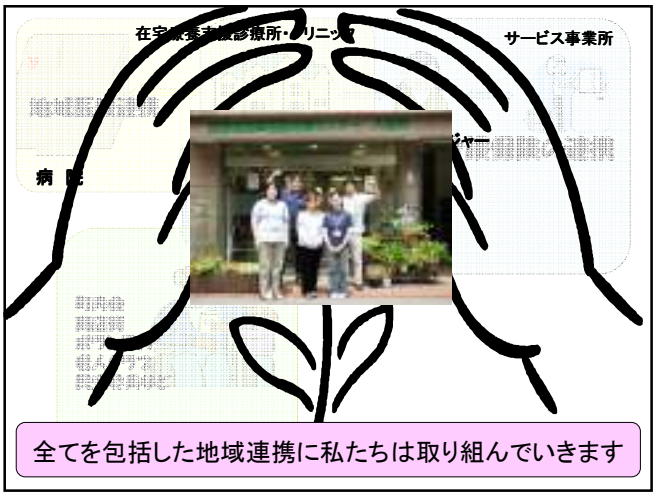
◆良い医療が受けられること！
→医療の充実

◆介護保険サービスが利用できること！
→福祉の充実

◆頼れる友人や地域とのつながりがあること！
→インフォーマルサービスの充実

◆生きがいや楽しみを持っていること！
→本人の自立の促進

どれが欠けても、安心して暮らし続けることはできない！



全てを包括した地域連携に私たちは取り組んでいきます

ブログ「地域包括支援センター沢の気の向くまま・感じたまま」
「おおた高齢者見守りネットワーク」の取り組みがタイムリーでご覧になれます。

URL：http://noborisawa.blog121.fc2.com/



こちらから、写真でつづる「おおた高齢者見守りネットワーク」2年間の歩みを見ることができます。